

## 【学校見学会挨拶】

### 海外修学旅行（台湾方面）の意義を考える

～一人1台のスマホパソコンも活用し国際社会を生き抜く力を身に付ける～

第13代校長 川瀬 徹

本校では現1年生（第40期生）から第2学年の2学期に海外修学旅行（台湾方面）を実施します。スクール・ポリシー（1）グラデュエーション・ポリシー（本校HP掲載）に述べている内容を実現するための取り組みの一つです。

台湾は日本から3時間で行ける距離で親日イメージが強く、身近な外国です。主として中国語と台湾語がつかわれていますが、中心都市である台北では世界共通の言語ともいえる英語がよく通じます。台湾の若い人たちはことに英語学習意欲が高く、英会話が得意です。日本の小学校で英語が必修化されたのは、つい最近の2020年からですが、台湾の小学校では日本の15年以上前から必修化されています。また台湾ではインターナショナルスクールや中国語と英語と両方で授業をするバイリンガルコースのある学校もさかんで、留学経験のない中学・高校生が流暢に英語を話す姿には驚かされます。物おじせず堂々と英語を話す台湾の人の姿は、私たちにとって良い手本となるでしょう。

東京ではいま、グローバル化と情報技術革新が急激に進んでいます。

この東京で高校生活を送ろうとしている皆さん、皆さんにはHYM（ミナミ）において国際社会の変化を生き抜く力を身に付けて欲しいと考えています。

これまでも本校ではTGG（TOKYO GLOBAL GATEWAY）へ出かけてまる一日英語浸けの生活をしたり、留学生と交流体験をするなど、通常の英語学習に加え、国際理解力を高めたり、異文化理解学習を積み重ねるなどしてきました。今年度からはまだ参加者数に制限はありますがものの宿泊TGG（1泊2日）も試行します。第39期生は今秋に留学生と京都や大阪で班別行動をする修学旅行を予定しています。こうした取り組みの発展したのが海外修学旅行です。世界とつながる学習機会の充実により、グローバル化する社会の中で活躍するのに必要な能力資質を育成するのです。その基盤となるのは主体的に学び続ける態度と英語力です。すでにJETプログラムによる外国人指導者を活用して授業内外での英語を用いたコミュニケーション機会を設けていますが、これに加えて、現在、使える英語力の強化を目指し、「聞く」「話す」を中心に個々の生徒の実践的なコミュニケーション能力を伸長するオンライン英会話の試行も準備中です。生徒一人一人の個性や能力を最大限に伸ばすためには、デジタルを活用しながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることが必要です。このため一人1台のスマホパソコン体制が導入されています。来年4月入学の皆さんが自分専用のスマホパソコンを手に入れば全学年全生徒が将来のデジタル人材となる歩みを進めることとなります。すでに本校在校生は総合的探究の時間をはじめ多くの授業で、情報システムや多様なデータを効率的に活用したり、コンテンツを創造したりする力も身に付ける取り組みを始めています。

以上、「授業で勝負」「教養で勝負」と日々励んでいるHYM（ミナミ）のごく一部の姿を示しましたが、本校にはもう一つ「部活で勝負」があります。部活で磨いた体力・人間力が国際交流を推進し、自ら未来を切り拓く営みを支える基盤を創っていることは言うまでもありません。